



ここでは都心部、都市近郊部、農村部という立地特性によって、課題に大きな違いがあり、都心から近郊にかけての社区では、主に中層集合住宅のバリアフリー化の遅れや設備の老朽化に問題が生じている。一方、都市近郊から農村にかけての社区では、社区の面積が大きいことにも伴って、診療所や高齢者施設整備の遅れや、分棟配置などによる戸建ての住宅形式が高齢者生活に不便や支障をもたらしているという点に言及している。

第VI章では、西安市における116ヶ所の居住施設の整備状況を都心部、近郊部、農村部ごとに調査している。西安市の居住系養護施設の個数やベッド数、護理系施設及び政府が投資する公的な施設等の量的な差を把握している。具体的には、西安市の土地利用現状地図データをもとに西安市全体を1km×1kmメッシュで10種類の土地利用種別に分類した上で、土地利用種別ごとに施設種類の立地傾向と運営状況（ベッド数、入所率、入所者の自立度）との関係について分析・考察を行っている。その結果、異なる土地利用種別のメッシュに立地する施設の入所率に影響がある事を示した上で、土地利用種別ごとの入所率の傾向について言及している。

第VII章では、第III、IV、V章で研究対象とした社区の周辺圏域にある高齢者養護施設を対象として、利用者側と運営者側の両視点から、機能的なスペースの配置、利用者の公私的空間の配置、居室と外部公共空間及び内部設備との関係等についてヒアリング調査を行い、空間の課題を明示した上で、施設と利用者圏域の関係を明らかにしている。

結章では、本論文の成果について、異なる地域ごとに、自助環境、共助環境、公助環境の視点で整理すると共に、異なる自立度の高齢者ごとに選択できる福祉居住環境の整備方針として具体的にまとめている。

以上により、地域における高齢者の生活を支える居住環境について、自助環境とする住居、共助環境とする社区及び公助環境とする施設についての分析・考察を行った。本稿の成果は、中国におけるこれからの高齢者の養老施設と地域居住環境整備の計画指針として構築することができた。

この成果は、生産工学、特に建築工学に寄与するものと評価できる。

よって本論文は、博士（工学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

令和 3年 3月 4日